

令和2年度 第2回学校運営協議会 記録

日 時：令和2年12月7日（月）10：00～12：00

出席者：学校運営協議会委員（6名：私立大学教授、障がい者就業・生活支援センター センター長、吹田市立中学校校長、私立保育園園長、本校 PTA 副会長、株式会社 総務部）、校長、事務局（7名）

1. 校長挨拶
2. 資料の確認
3. 学校運営協議会の要綱・準則の改定について
4. 中学部の授業見学 「中学部2年課題（かず）」

5. 報告

<学習評価の様式について>

・新学習指導要領の実施に伴い、教科の学習評価（個別の指導計画）の様式を変更したことを報告。評価の3観点を活かせるような様式となった。

<第1回の進捗状況「本校のコロナウイルス感染症対策について」>

・学校再開にあたり、本校でどのような感染症対策を行ってきたかを報告。
・日常生活の対応、行事の取り組み方での工夫、学習支援員、スクールサポートスタッフについて

・行事については、修学旅行の実施についてどのように検討してきたかを当日の写真を提示しながら説明

6. 休憩

7. 協議（進行は会長のA委員）

A委員：本日はよろしく申し上げます。久しぶりに吹田支援学校に来まして、開校から20数年たってはいても建物もきれい、そして、そこで活動している子どもたちの様子を見ると

ほっこりした気持ちになります。コロナ禍で大変な時期ですが、先生たちも頑張って指導され、活動が活性化しているなと思いました。

今日は中学部の授業見学がありましたが、ソーシャルディスタンスはありますが、先生たちと子どもたちの気持ちの上での距離感が近く感じられました。まさに支援教育は教育の原点と改めて感じました。

今日はせっかくの機会ですので、委員の皆様には授業の感想もふくめ、教育活動をさらに充実させるための提案やご意見をそれぞれの立場から伺いたいと思います。

B 委員：授業を見て感じたことですが、思っていた以上に授業が視覚化・構造化されていることに感心しました。授業のスケジュールはもちろん、活動の魚釣りで何匹釣ったか数えるのにも視覚支援が用意されていました。進路先の事業所等でもこのような支援はますます必要と思います。

視覚支援もそうですが、それ以上に先生たちが授業を盛り上げようと子どもたちに働きかけている姿勢に感動しました。

C 委員：教材が工夫されていたと思いました。授業の進め方も系統だっており、テンポよく進められていたのもよかったです。授業にしても行事にしても先生たちがしっかり進められていると感じました。

コロナへの不安はどれだけのものだったのでしょうか。その不安を抱えつつ、授業や行事の準備を進められてきた先生たちの苦労は多かったことと思います。

D 委員：私も授業内での視覚支援について感心しました。特に、釣った魚を数えるための数字のボードは、とてもわかりやすいと思いました。

また、先ほど行事の写真なども見させていただきましたが、今は行事をやってもやらなくても保護者からいろいろご意見が出るという状況です。とは言いましても、子どもたちの行事での笑顔を見るとやっぱり行事ってやらなくてはいけないというふうに思います。もちろん今までの通りにはできませんが、工夫してやるのが私たちの大きな責任と考えています。

今日の協議会のような横のつながりを生かした場での話は大変参考になります。

E 委員：保護者の立場からも、行事が実施されることはとてもありがたいことです。うちの子どもも遠足を数日前からとても楽しみにしている様子でした。修学旅行も然りです。

コロナの不安の中でも、子どもたちが学校で楽しく過ごしていると言うことは親として、とてもありがたいです。

授業見学については、視覚支援の話が出ています。魚釣りをしたと連絡帳を読んで知っていたのですが、今日授業を見てこんなふうに行っていたのだと感心しました。参観で見る機

会があることとても大切だと思いました。

F 委員：視覚支援ということが話題になっていますが、本社でも清掃用具の整理などで視覚化をしています。障がいのあるなしに関わらず視覚化を進めていくことは必要という立場から取り組んでいます。こういった視覚支援を授業に取り入れるということは、今までの授業の積み重ねがあってこそこういう形になっていると感じました。

また、先生たちの盛り上げ方、みんなを乗せて雰囲気を作る。とても勉強になりました。企業も就労が定着していけるよう雰囲気づくりなどが大事と思いました。

本社でもコロナ対策を綿密に行なっています。全国から従業員が研修にやってきます。社内では一日数回、手すりやエレベータを消毒しています。家庭感染も気になるので張り紙で注意喚起を行なっています。コロナ対策を伺いましたが、お話には学校のご苦勞が滲み出ていると感じました。

B 委員：就労支援の立場から言うと、コロナ禍の中、Zoom での面談をおこなったという経験から、生徒たちにつけてやってほしい力の一つにオンラインサービスの使い方があります。実際にやってみたことがあるのですが、まずはアカウントという言葉からの理解が必要でした。力をつけるためにチャットを活用したり、そこでしりとりをやってみたりもしました。

A 委員：さて、コロナ対策ということで学校のいろいろな対応を伺いました。例えば、給食では全員前を向いて食べるという現状で、いわゆる食事指導には制限があります。先生たちも「前を向いて食べられるかな?」「マスクできるかな?」と心配されたでしょうし、今までとは違う支援の必要があったことと思います。私もどうかと思っていたのですが、支援学校では十分対応できている。そこに子どもの力を感じているところです。

さて、行事では楽しいところはもちろんあったことと思いますが、進めるにあたり、先生たちにとってはヒヤヒヤな部分もあったことでしょうか。教頭先生どうですか?

教頭：修学旅行は終われば楽しい思い出ですが、事前準備の段階からヤキモキしていることがたくさんありました。キャンセルの取り扱いとか、旅行中は熱が出ないか? 風邪症状でも別行動という対応になり、まさに例年にない心配でした。何もなく無事行われてほっとした次第です。

教頭：実は、小学部が行く予定をしていたホテルが廃業となり変更が必要になりました。幸い、別のホテルを見つけましたが。このような想定しないことが次々と起こり、それへの対応に苦勞しました。実際、スケジュール対応に苦慮し2回も計画を変えることになりました。担当者は夢に見るほど重圧だったとのことでした。

A 委員：保護者との連携も必要だったことでしょうか。

教頭：旅行中の検温で37度5分以上の熱がありますと、その子どもは隔離となります。保護者には可能な限りお迎えに来てもらうことをお願いしていました。それに備えて、交通費も請求できる保険に入ることが必要になり、その選定に苦労しました。

A 委員：保育園ではどうでしたか？

D 委員：みんなマスクをしているという状況ですが、果たしてこのことが子どもたちの将来にどんな影響が出るかと考えています。周りの人の表情が見えないことはどうなのでしょう。今、子どもたちは、先生の認識を先生の目の動きだけで判断しているわけです。表情がわかるようにとマウスシールドの使用もありますが、これでは飛沫が飛びますので感染対策に適していません。

また、今の給食の型、同じ方向を見て黙って食べるということの影響が出るのではと懸念しています。会話がなくてどう影響するのだろうかと思います。保育の現場では、テーブルの上にシールド置いて向かいあい、表情見ながら食べたい。日常と近い形でというのが保育には必要と思っています。

感染防止のためにどんなに寒くても換気を常にして、窓は全開、高温で暖房をかけているという状況です。

A 委員：話題を変えます。学習評価の様式の見直しについてはいかがでしょう。学習指導要領で示された評価の3つの観点を踏まえて、個別の指導計画を見直されたわけですが、どんな点に留意されましたか？

事務局（首席）：一番は様式です。評価の観点の意図を生かした様式になるよう検討し、その際、教科の特性も踏まえて、全学部共通の様式を作りました。これからは、実際の記述をより適切なものにしていくということとなります。

A 委員：前期の評価を読まれた保護者の立場からはどうでしたか？

E 委員：観点に基づいて、書いているということがよくわかりました。そのうえで、今日のように実際に授業を見せていただくことも大切と思いました。

校長：本校では月1回を目標に授業参観を設定しています。今はコロナのため日時指定をさ

せてもらっています。

E 委員：コロナで大変な中、学習発表会をよくやっていただきました。とてもよかったです。

A 委員：進路関係からはいかがですか？

B 委員：卒業後に向けて生徒たちのできることが年々上がっていると感じています。積み重ねが大事です。挨拶、学ぶ姿勢、積極性、そういったことを身につけていくことが評価の観点として上がっていることは良いことと思います。個別の指導計画に支援計画、次の場所に伝わるような取り組みはとても良いことだと思います。同時に、指導計画だけではなく、つながりを工夫して行ければと思います。

A 委員：企業の立場からはいかがでしょう？

F 委員：評価の3観点とてもいいと思います。知識・技能は、教えられるようになることですが、それだけでは「指示待ち」になってしまいます。表現・判断できる、その力のあたる人材育成が大事です。それは仕事へのモチベーションにつながります。これからは自分の課題を見つけどう解決していくかを考えられることが求められています。

A 委員：いろいろとご発言いただきました。最後に私から。現場の教員から見て、今の時代、これから教員をめざす学生に言いたいことは？

事務局（首席）：挨拶、目を見て話、そして何よりも元気ですね！

A 委員：ありがとうございました。これで協議を終わります。

8. 本日のまとめと挨拶（校長）

校長：本日はありがとうございました。特にコロナ感染対策について貴重なご意見を伺える機会となりました。

6月の学校再開の際、知的障がいのある支援学校の再開は他の支援学校より遅れました。遅らせる根拠の一つに、マスクの着用率がどうかということがありました。私は、給食でマスクをする習慣があるので逆に高いので心配はないと思っていました。再開時に本校の着用率を調べてもらいました。74%でした。ただし、小1の新生児は30%でした。先週、再度調べたところ、未着用率が前回の15%から6%と大幅に減りました。学校での集団生

活の中での習慣化と保護者のご協力をいただいた結果と思っています。

コロナ感染防止のために制限がありますが、行事等の取り組みをやめないで工夫してできることやっていく。本校の教職員はこのような気持ちで取り組んでいます。今後もこのような姿勢で力を尽くしていきます。

皆様には今後ともよろしく申し上げます

9. 事務局より

第3回は、令和3年2月8日（月）であることを確認

10. 閉会 12:00

以上